

※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

知事 の学校訪問！

知事が、三重の子どもたちの様子や授業改善の取組を見たり、学校現場の生の声を聴いたりして、今後の教育行政の推進に生かしていくため、松阪市立花岡小学校を訪問しました。

●●●「松阪市立花岡小学校」の取組の特徴●●●

花岡小学校は、児童数が600名を超える大規模校ですが、教職員が一丸となって児童の学力の定着のために授業の工夫を行い、一人ひとりに応じた指導に取り組んでいる学校です。

主に以下のような取組を実践しています。地域の積極的な支援も受け、児童一人ひとりの学力向上のためにきめ細かな指導を行っています。



● ペア・小グループ学習の推進

・コミュニケーション力を高め、児童同士のつながりを深める、ペア学習・小グループでの学習の推進

● 学習規律の徹底と授業の流れの徹底

・しっかり返事をして最後まではっきり述べるなどの学習規律の徹底
・授業のはじめの「めあての提示」と、授業の最後での書くことによる「振り返る活動」の徹底

● 「JSLカリキュラム」にもとづく授業づくり

・日本語指導が必要な児童に対する「JSLカリキュラムにもとづくわかりやすい授業づくり」（教科指導型日本語指導）の取組

● 地域の方々の支援

・公民館活動での子どもたち対象プログラムの設定、交通安全の見守り、学校図書館支援、授業参観時の幼児の預かり

●●●意見交換より●●●

知事 | 若い先生の授業力向上のために、自分が持つ経験をどう伝えていますか。

教諭 | 普段からよく情報交換するようにしています。その中で、これまでの実践で得た情報や、教師として大切にしていることなどを伝えています。また、授業を見せ合って気づいたことを話し合っています。さらに、教育研究会で、学校や年齢を越えて切磋琢磨し、その内容を学校で広めています。

県教育長 | 秋田県では、先生方の自主的な教科の研究会活動などが学力向上の成果につながっています。松阪市の教育研究会も更に充実させてください。

知事 | 全国学力・学習状況調査では、無解答が多いという課題がありますが、途中で諦めずに取り組むよう、どのような工夫をしていますか。

教諭 | みえスタディ・チェック等を活用し、2回問題を読むよう声をかけ、すぐに諦めるのではなく、今の自分分かる範囲でよいので解答するよう指導しています。また、日々の授業の中で、考える時間を確保することも大切です。ペアやグループの学習で、自分の考えを伝える経験をする中で、児童は自信をつけていきます。自分は授業が勝負だと考えているので、一人ひとりが分かる喜びを感じる経験を積み重ねることができるよう授業を目指しています。

知事 | 子どもの可能性を引き出すための保護者や地域住民と連携した取組等はありますか。

校長 | 学校通信で情報発信をしています。また、スクールサポーターによる登下校時の安全見守りや読書ボランティアによる読み聞かせや本の修理など、様々な形で支援をしてもらっています。来年度からの土曜日の授業でも保護者や地域住民と連携をしていきます。

県教育長 | コミュニティ・スクールは、学校・家庭・地域が協働し子どもたちの豊かな成長を支えることで、教育的効果があります。松阪市は取組を進めていますが、今後もぜひ積極的に進めてください。

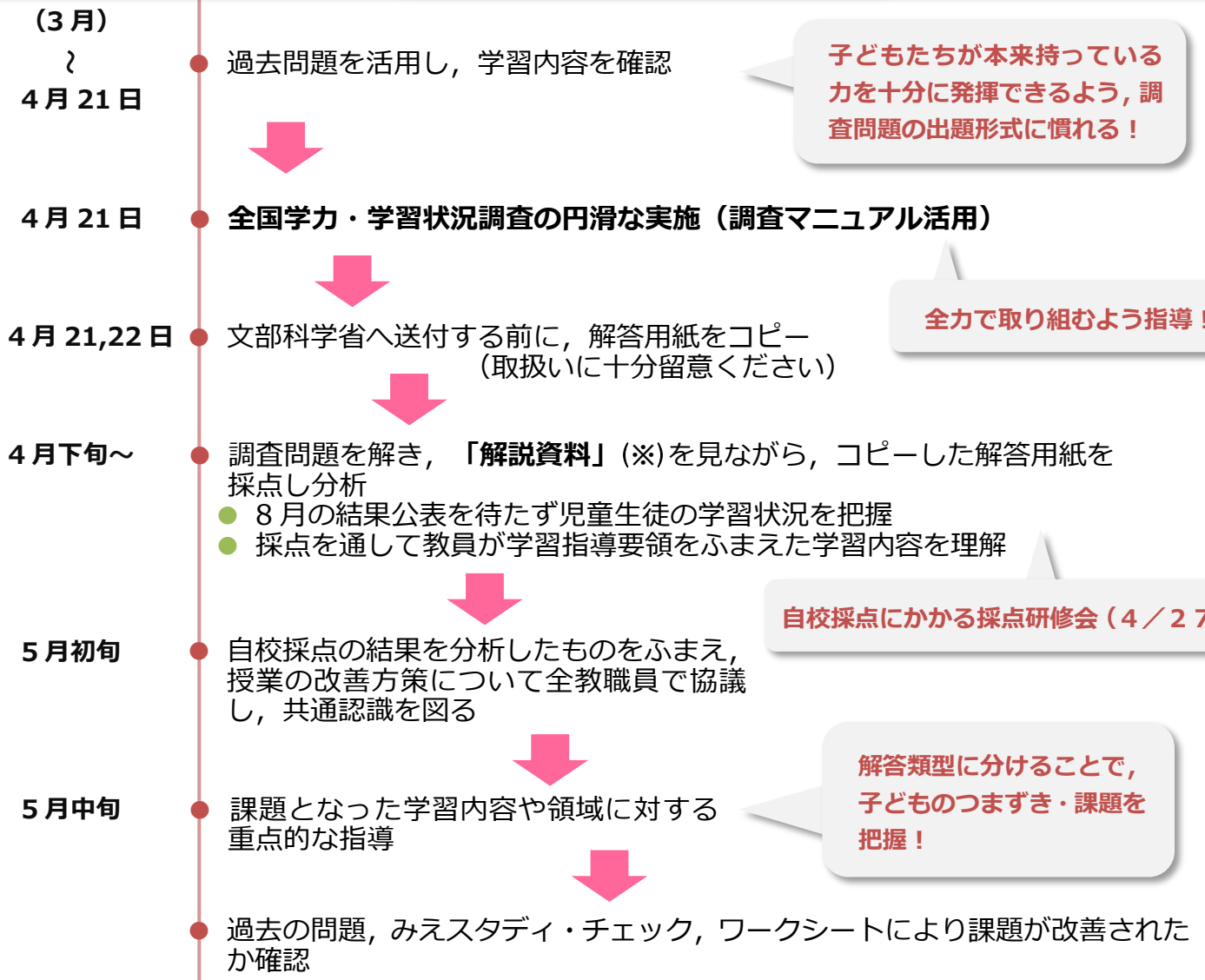
全国学力・学習状況調査の効果的な活用を！

～早期に子どもの実態を把握し、授業改善につなげる～

● ポイント

- 全教職員が調査問題を解く！
- 過去の問題を再実施する！
- 自校採点・分析を行う！

● ● ● 各校での取組モデル ● ● ●



(※)「解説資料 ～一人一人の児童の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて～」(文科省より送付)の活用をしましょう！

- 特徴①** 「教科に関する調査」の各問題について、学習指導の改善・充実を図るための情報が盛り込まれており、全ての先生が調査実施後すぐに活用できます
- 特徴②** 児童生徒一人一人のつまずきがわかる「解答類型」が設けられています
- 特徴③** 関連する過去の資料も掲載されていますので、学習指導の改善・充実に活用できます

平成 27 年度第 1 回公立小中学校長研修会を開催しました

～ 4 月 3 日 (金) 三重県総合文化センター中ホール ～

県内の小中学校長、市町及び県教育委員会事務局職員等あわせて 640 名が参加しました。

はじめに、鈴木知事よりご挨拶をいただきました。



- 全国学力・学習状況調査については、子どもたちの学力・学習状況を把握・分析し、有効に活用してほしい。子どもたちに 1 日という時間を使わせて、何もフィードバックできないというようなことはあってはならない。
- 子どもたちの可能性を引き出し、「やればできる」という自己肯定感を高めるチャンスとして学校・家庭・地域が一体となって進めてほしい。
- 平成 26 年度に小学校 2 校を訪問し、校長のリーダーシップの重要性を実感した。校長には、その人なりに、学校や地域に合ったやり方でリーダーシップを発揮してもらいたい。

次に、山口教育長より挨拶がありました。その中で

- 平成 26 年度に成果がみられた沖縄県の取組（子どもの学力の実態に基づいた明確なビジョンや方策を共有し取組を進めること、管理職のマネジメントによる全校体制での取組を進めること、無解答率の改善に向けた取組を進めること）を参考にし、取組を進めてほしい。
- 学校の実態や子どもの実態を把握し、家庭や地域と積極的に情報共有を行っていただきたい。
- 子どもたちが自信を持って社会に羽ばたいていけるよう、授業改善等の取組の充実を図ってほしい。
- 学校を変えるのは校長であるとの自覚と責任とやりがいを持って、この 1 年を務めていただきたい。

そして、国立教育政策研究所教育課程研究センター長 高口 努 氏より「全国学力・学習状況調査の活用と学習指導要領について」と題し、ご講演いただきました。



～講演概要～

- 現在の我が国社会をとりまく状況と教育課程改革の国際的動向について
「実生活・実社会において知識の活用ができるように」という教育改革が進行している。
- 我が国における教育課程改革の動向について
学ぶことと社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の改善に加え、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要。また、学びの成果として「どのような力が身についたか」という視点が重要となってくる。
- 全国学力・学習状況調査等から見える児童・生徒の学力等の現状と指導改善について
全国学力・学習状況調査の最大の目的は、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることである。

本講演のまとめとして次のように締めくくられました。

各学校においては、全国学力・学習状況調査の調査結果等を活用し、当該学校の児童生徒の学力等の現状や取組の成果と課題をきちんと分析・把握するとともに、分析の結果を教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるため、校長等の管理職のマネジメントによる学校全体の教員への情報共有や意識改革が強く望まれる。

最後に、県教育委員会事務局学力向上推進プロジェクトチーム担当課長が、学力向上に向けた取組について話をしました。

- 4 月 21 日に向けて、無解答率の改善や、「調査マニュアル」の記載内容の周知を図ってほしい。（記載内容：「最後までがんばって解答すること」「解答（回答）欄の場所を間違えずに記入しているかを確認し、適宜、指示すること」等）
- 全国学力・学習状況調査の過去問題や「みえスタディ・チェック」等を活用してほしい。
- 各校において自校採点を実施し、早期からの授業改善や個々の児童生徒へのきめ細かな指導に活用してほしい。

今後、当研修会で確認、共有された方向性や取組の方針等を踏まえた、各校長のリーダーシップによる組織的・継続的な学力向上の取組が期待されます。

平成 27 年度全国学力・学習状況調査の実施にあたって

調査マニュアル【教室監督者用】の徹底

子どもたちの力が十分に発揮されるよう再度確認し、徹底していきましょう。

- 「平成 27 年度全国学力・学習状況調査【小学校】調査マニュアル」【教室監督者用】を熟読!!
- 「平成 27 年度全国学力・学習状況調査【中学校】調査マニュアル」【教室監督者用】

手順に沿って調査が適切に実施されるようお願いします!!



特に、次の注意事項を伝えてください!!



調査実施前

- 最後までがんばって解答すること

【小学校】
P.10

【中学校】
P.7

調査中の確認

- 児童生徒が解答（回答）欄の場所を間違えずに（適切なところに）記入しているか確認し、適宜指示してください。
- 解答を諦めているような児童生徒には、できるところから解答を試みるよう、適宜指導してください。



【小学校】
P.12

【中学校】
P.10

力を出し切る指導を!

無解答をなくしましょう!